

平成28年度 五泉市社会科部 活動報告

部長 立川 徹也

1 活動のねらい

- ・学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、授業研究を進める。
- ・社会科に関する地域素材を探り、その教材化を図る。

2 活動内容

(1) 3年生「店で働く人と仕事」の指導計画・資料を持ち寄り、情報交換（6月）

「単元導入時における買い物調べの方法」と「見学時における視点の持たせ方」について、情報交換を行った。単元導入時には、「なぜその店で買い物をするのか？ それは、その店のよさがあるはずだ」という意識を児童に持たせたい。そのためには、買い物調べのカードに、その店で買い物をした理由を記入させておいたほうが、お店の人たちの工夫や努力に気付きやすいのではないかと指摘が出た。また、見学の視点を持たせるために、教科書にある絵資料を用いて、見学先のスーパーにもこの資料と同じ工夫があるのか、見学で見てくること、聞き取りをしてくることを決めておき、実際の見学に臨むようにするとよいという提案がなされた。

(2) 授業研究（9月）

① 単元名 「店で働く人と仕事」 授業者 五泉小学校 教諭 石田 到

② 授業の概要

本時は店内の鳥瞰図から、スーパーマーケットが行っている工夫について気付くことがねらいであった。前時までにおける家庭での買い物調べの段階では、「価格」「鮮度」「距離」「サービス」といった視点しか出てこず、授業開始段階では、それだけで満足していた児童が多かった。しかし、お客さん



へのアンケート結果を提示することで、児童の予想とのズレを生み出した。児童は、ペアで話し合いながら鳥瞰図を見つめ直し、別の視点からスーパーマーケットの工夫について考えるようになった。その結果、この視点をもとに、児童はその後の店舗見学で、自らが決めた事柄について調べ活動を行うことができるようになった。

(3) 4年生「昔から今へと続くまちづくり」に関する研修会（10月）

近年の河川改修の現状と課題について、新津地域整備部河川整備課から講話を頂く機会を持った。その中で、河川改修は、災害が再度起きないようにすることが第一の目的ではあるが、原状回復に留まらず、川に親しんだり、川で遊んだり、川に憩いを求めたりするなど、様々な人々の願いを拾い上げながら、地域住民と工事関係者が協力して進められてきたことを理解できた。



3 成果と課題

今年度も、教師自身が地域に目を向け、もっと深く地域を知り、それを授業に役立てることを目的に研修を行った。その中で、普段なかなか知りえない情報も数多く知ることができた。

児童が、郷土を知り郷土に誇りを持てるようにするためには、地域に根差した社会科授業を展開することが重要である。そうした授業を誰もができるようにするため、今後も資料や実践の蓄積を図っていく必要がある。